



2023年社会保障・人口問題基本調査

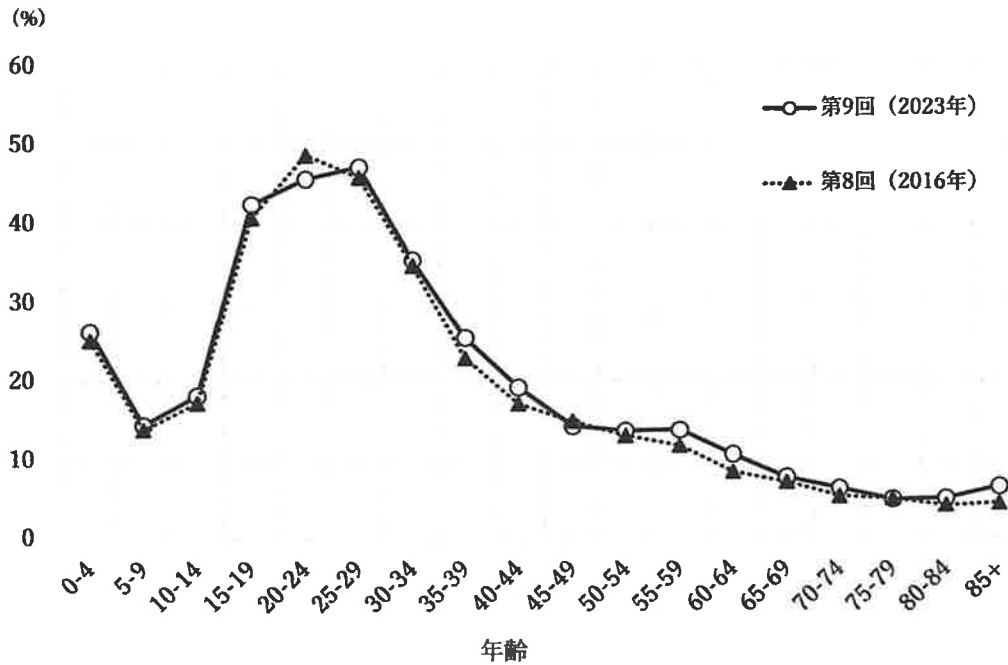
## 第9回人口移動調査

結果の概要

### 目次

I.	調査の概要.....	1
II.	移動の概況.....	5
III.	現住地への移動理由.....	10
IV.	出生地と現住地.....	16
V.	Uターン移動.....	20
VI.	5年後の移動可能性.....	24
VII.	親との居住距離.....	33
VIII.	親の出生地.....	37
IX.	移動類型による子ども数.....	42
X.	若壮年の移動.....	45
XI.	高齢者の移動.....	49
XII.	外国籍・国外生まれの人.....	55
XIII.	新型コロナウイルス感染症拡大による移動への影響.....	58
XIV.	複数の生活拠点.....	61

図 VI-2 年齢別、5年後に移動可能性がある人の割合 (%)



注) 5年後に居住地が異なる可能性が「大いにある」あるいは「ある程度ある」と回答した人の割合。

次に、5年後に移動可能性のある人の割合を現住都道府県別にみると(表 VI-1)、大都市圏に所在する都府県と北海道、沖縄県において移動可能性が比較的高い。北海道、沖縄県を除き、非大都市圏に所在する県は、大都市圏に比べ概ね移動可能性が低い傾向にある。

### 3. 5年後の移動理由

5年後に移動する理由については表 VI-5 に示したように、15 の選択肢を 8 項目に分類して集計を行った。移動理由は表 III-1 と同じように分類しているが、5 年後の移動理由では「離婚」を選択肢として設けていないのでこれを含まない。「5 年後に移動可能性が少しでもある人」の移動理由をみると（図 VI-3）、全国では、「住宅を主とする理由」が 24.0% と最も多く、2 番目に「職業上の理由」が 19.8%、3 番目が「その他」となっている。

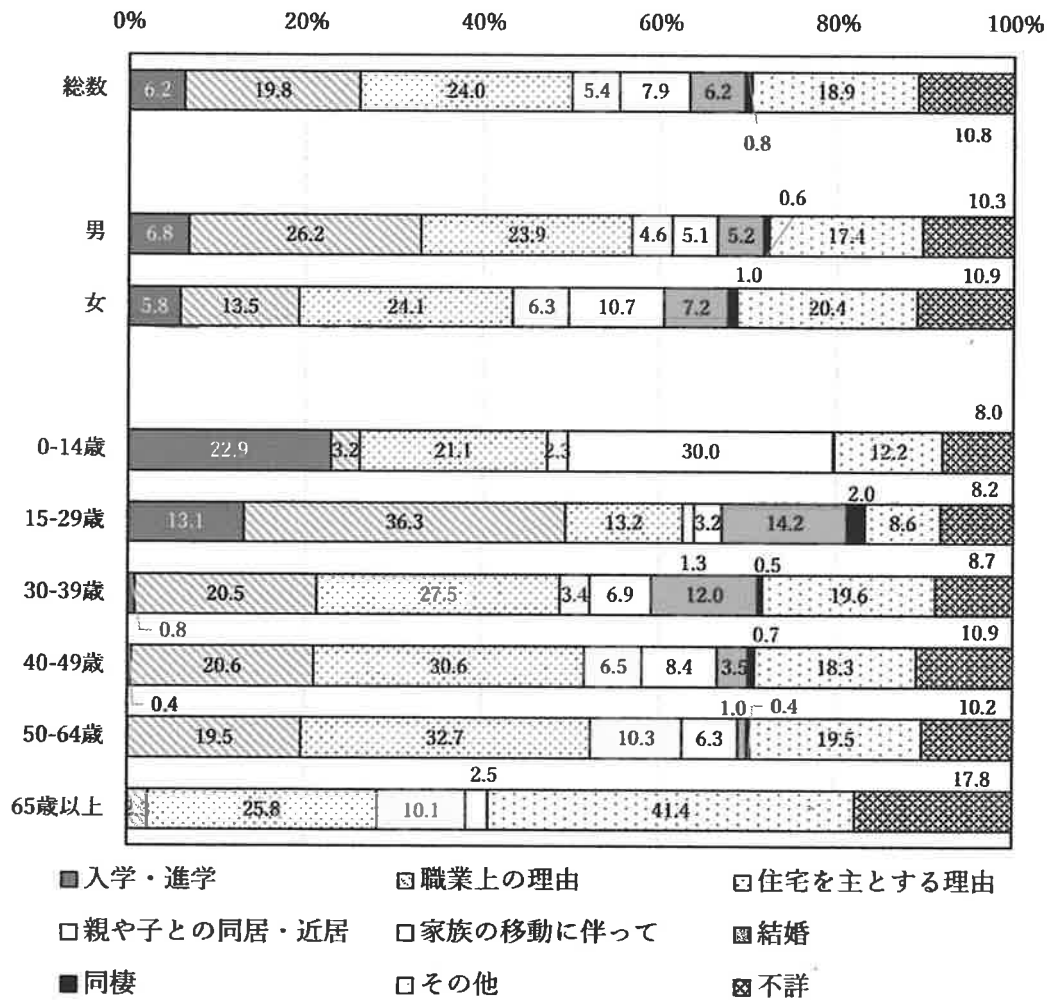
表 VI-5 5 年後の移動理由と分類項目

	分類項目	選択肢
5 年後の移動理由	1. 入学・進学	入学・進学
	2. 職業上の理由	就職・転職、転勤、定年退職
	3. 住宅を主とする理由	住宅事情、生活環境上の理由、通勤通学の便
	4. 親や子との同居・近居	親と同居・近居、子と同居・近居
	5. 家族の移動に伴って	家族の移動に伴って
	6. 結婚	結婚
	7. 同棲	同棲
	8. その他	子育て環境上の理由、健康上の理由、その他

男女別にみると「家族の移動に伴って」及び「結婚」を理由とする移動は男性よりも女性の方が高く、「職業上の理由」では女性が男性と比べ非常に少ない。一方、「入学・進学」を理由とする移動の割合は、「職業上の理由」に比べると男女の差が小さい。

年齢別に移動理由の割合をみると「入学・進学」は、0-15 歳及び 15-29 歳と若い年齢階級のみ偏った移動理由となっており、「住宅を主とする理由」は 30 歳以上 64 歳以下の年齢階級で最も多い移動理由となっている。「職業上の理由」は、15-29 歳では最も多い理由であるが、30 歳以上 64 歳以下では 2 番目に多い理由となっている。また、15-29 歳及び 30-39 歳の年齢階級では、「結婚」を理由とする移動も、他の年齢に比べ多くなっている。65 歳以上の高齢者では「その他」や「住宅を主とする理由」、「親や子との同居・近居」で 70% 近くを占めている。

図 VI-3 男女別・年齢別、5年後の移動理由 (%)



注) 5年後に居住地が異なる可能性が「大いにある」「ある程度ある」「あまりない」と回答した人に対する割合。

次に、現住都道府県別に5年後の移動可能性が少しでもある人の移動理由をみる(表VI-6)。全ての都道府県で「住宅を主とする理由」、「職業上の理由」がかなりの部分を占める。大都市圏に所在する都道府県ではこれらの理由が多いが、非大都市圏では「入学・進学」を理由とする割合が大都市圏に比べ高い傾向にある。